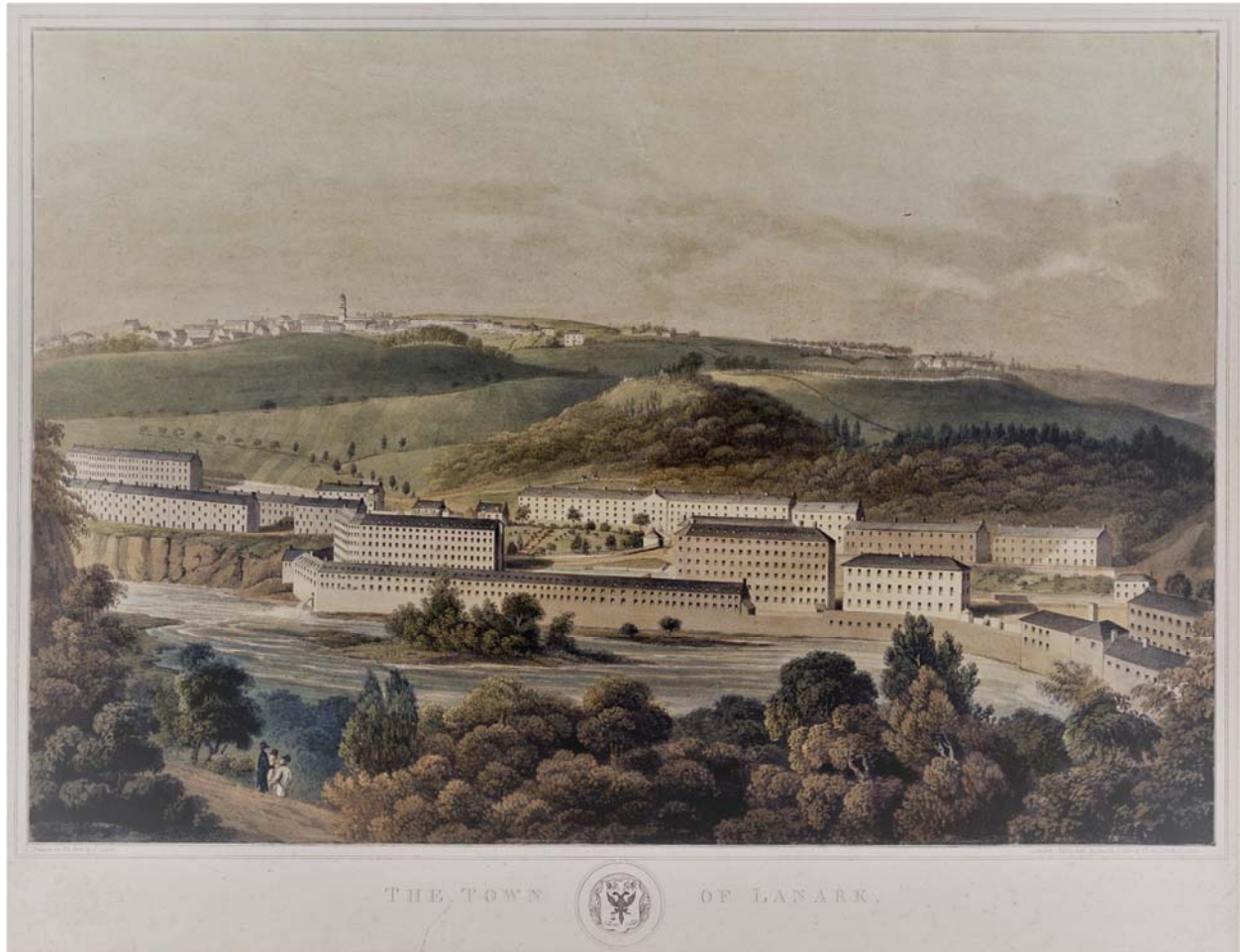


東京大学経済学図書館 2019 年度第 1 期展示
「おわりとはじまり」東京大学経済学図書館の貴重資料から
展示品解説

The Town of Lanark, 1825. (ロバート・オウエン文庫) 【展示番号 1】



スコットランドの代表的な景色を描いた"Views in Scotland"という 35 枚からなる手彩色銅版画の連作中の一枚である。作者は画家・版画家のジョン・H・クラーク (John H. Clark, 1770-1863) とされている。画面手前に、クライド川 (River Clyde) とその水力を利用したニュー・ラナーク (New Lanark) の工場群を大きく描き、後方左にラナーク市街の遠景を望む。中央の空白は 1819 年の火災で焼失した第 3 工場の跡地である。第 3 工場は 1826 年から 32 年にかけて再建されるので、この版画は再建工事開始直前の 1825 年の風景として史実と符合しており、描写の正確性をみてとれる。

ニュー・ラナークは、空想的社会主義者のロバート・オウエン (Robert Owen, 1771-1858) が経営に携わり、労働の環境や待遇の改善、社会福祉の充実により生産性の向上をはかり、理想的な工場村に育て上げたことで知られている。イギリスの産業革命期を代表する遺跡の一つであり、2001 年には世界文化遺産に登録された。この版画の製作年は、オウエンがニュー・ラナークの経営に携わった最末期にあたり、彼による理想郷の最終形がこの版画の風景に凝縮されているといっても過言ではない。

なお、この銅版画は、2013 年度以降現在まで本館利用案内の表紙を飾っている。 (小島)

【参考文献】(本館に所蔵のあるものは □ に請求記号を記してあります。以下同)

平尾毅「19 世紀英国における工場村の変遷」『商経論叢』53(4), 2018. [85:1247]

宮下千代「オウエン文庫「THE TOWN OF LANARK」について」『東京大学経済学部資料室年報』5, 2015. [85:1947]

WHC Nomination Documentation : New Lanark, 2001.

米穀売買出世車 延享5 (1748) 年【展示番号2】



えんきょう

延享5 (1748) 年に浪花 (大坂) の東白により著され、大坂船町の千種屋新右衛門により出版された。

ふなまち ちぐさやしんえもん

乾・坤の2巻からなる。享保15 (1730) 年に幕府から公許された大坂の堂島米会所は、正米商 (スポット契約) と帳合米商 (先渡契約) の2つの方式で米切手を売買し、世界最初の証券先物市場といわれた。本書は、堂島米市場での取引の心得を平易に記した、最古の相場指南書である。本展示では、1999年のコンピューター取引移行前の株式売買さながらに、両手と声を駆使して米切手の売買を行う多数の人々を描いた「米相場図」と、全国各地から大坂に入荷する諸藩の年貢米の検査を行った図の2つを掲げた。

(富善)

【参考文献】

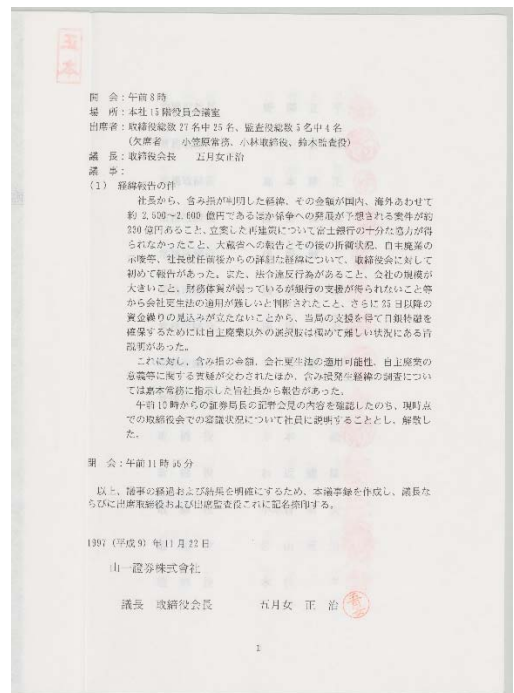
安達太郎『徳川時代経済秘録全集』松山房, 1941. [5-C:58]

高槻泰郎「近世日本の相場指南書：大坂米市場を素材にして」『国民経済雑誌』208(5), 2013. [85:23]

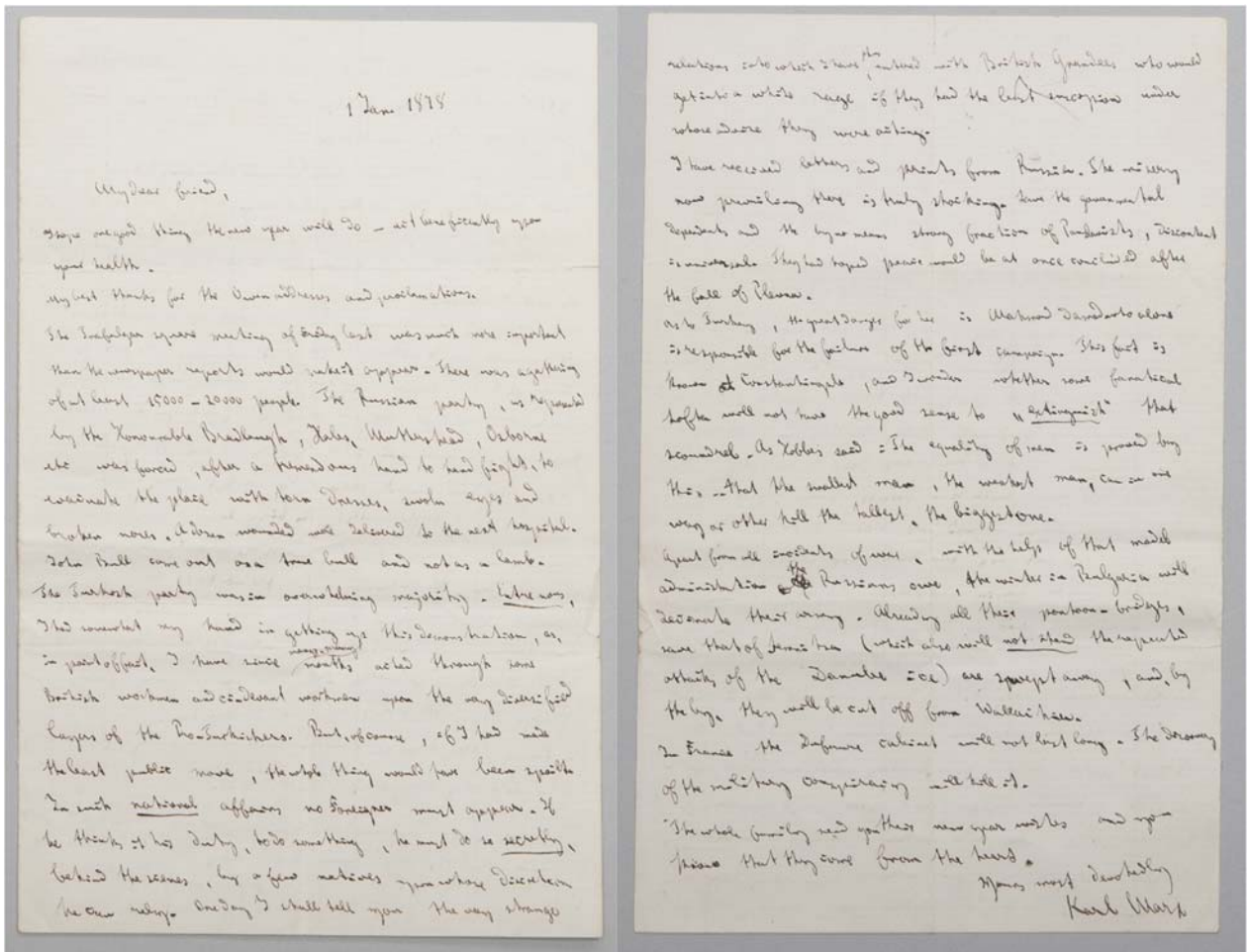
臨時取締役会議事録 平成9 (1997) 年11月22日 (山一証券資料第二次寄贈分)【展示番号3】

平成9 (1997) 年に起こった山一証券の経営破綻は、平成という時代を象徴する出来事の一つとして、野澤社長の「社員は悪くありません！」という訴えとともに、同時代を生きた人々の記憶に深く刻みつけられていることであろう。この経営破綻は、社員にとっても寝耳に水の出来事であった。展示品は、経営の実情が初めて社内に明かされた取締役会の議事録である。

山一証券の内部資料は、この倒産劇の直後、関係者の尽力で東京大学経済学図書館に寄贈された。分量にしてダンボール700箱を超える膨大な資料群は、順次マイクロフィルムおよびデジタルデータとして公開されており、この「失われた時代」の実情を解明するための大きな手掛かりになると期待されている。(矢野)



カール・マルクス書簡（1878年1月1日付 トマス・オルソップ宛）【展示番号4】



本書簡は、1966年にロンドンで発見されたカール・マルクス（Karl Marx, 1818-83）自筆書簡（1873年12月23日～1878年4月28日）6通のうちの1通である。これらは当初一括して入札に出されたが、その後各地に分散し、この1通が1967年に東京大学経済学部で購入が持ちかけられ、当学部の所蔵するところとなった。書簡は、マルクスが友人のトマス・オルソップ（Thomas Allsop, 1795-1880）に宛てて新年に書いたものである。オルソップは、イギリスの株式仲買人で、チャーティストの同人でもあった。また、パリ・コミューンの亡命者援助のための資金調達にも携わっており、その件でマルクスと数回面会している。

書簡が記された時期は、露土戦争（1877-78年）の最中で、その内容も露土戦争に関連したものとなっている。特に、12月にトラファルガー広場で行われた、ロシアの攻撃に対する抵抗勢力（戦争賛成派）や反戦派の集会について述べられている。この集会は、乱闘で負傷者が出るほどの騒動となった。なお書簡には、この集会が「先週の金曜日」に開かれたとあるが、実際の日付・曜日は12月29日土曜日である。ちなみに、マルクスは悪筆として知られ、その悪筆ぶりについては、彼の父が「苦心しないと読めない」とたしなめ、妻イェニーは夫の原稿を清書しなくてはならず、エンゲルスは「読めない筆跡」と吐露したというエピソードがある。（森脇）

【参考文献】

- 鈴木鴻一郎「マルクスの手紙」『経済学論集』35(1), 1969. [85:79]
- 古田耕作「カール・マルクスの性癖」『岐阜大学教養部研究報告』8, 1972.
- Cohen, Jack, et al., *Karl Marx Frederick Engels: letters 1874-1879*(Marx & Engels Collected Works, Vol. 45), digital edition, London: Lawrence & Wishart, 2010.
- Laity, Paul, *The British Peace Movement 1870-1914*, Oxford: Clarendon Press, 2001.

ジョン・メイナード・ケインズ書簡（1933年5月3日付 ロイ・ハロッド宛） 【展示番号5】

20世紀のマクロ経済学に大きな影響を与えたケインズ（John Maynard Keynes, 1883-1946）の書簡。本館所蔵の「ケインズ / ハロッド、その他経済学者書簡、覚書」（328点）のうちの1点である。当コレクションは、1989年12月にイングランドの古書店から購入された。このうちの書簡類（1922-1974年、全181点）の中で、ケインズ発信のものは33点あり、そのうちハロッド宛が32点を占める。

当書簡でケインズは、オックスフォードのランチョン・クラブで講演するというハロッドからの依頼に対して丁重に断

りを入れている。その理由を、「自分の時間」を保つために、本来執筆すべき事を講演することはやめる必要があるからとしている。ここから、ケインズが、自身の見解を公表する手段として講演よりも執筆を重視していたことがうかがえる。

（森脇）

【参考文献】

福田名津子「東京大学経済学部資料室所蔵「ケインズ / ハロッド文書」の再整理」『東京大学経済学部資料室年報』9, 2019. [85:1947]

吉川洋「ケインズ / ハロッド文書」『経済資料研究』28, 1998. [85:1469]

Besomi, Daniele, ed., *The Collected Interwar Papers and Correspondence of Roy Harrod*, Volume I, Cheltenham, UK and Northampton, USA: Edward Elgar, 2003. [3:1643:1]

Marcuzzo, Maria Cristina, Rosselli, Annalisa, ed., *Economists in Cambridge : A study through their correspondence, 1907-1946*, London and New York: Routledge, 2005. [3:1708]

2019年4月1日に東京大学大学院経済学研究科・経済学部は創立100年を迎えました。

4月は新3年生や大学院への新入生を迎える時期でもあり、何かが終わりと新たな始まりを迎える時期です。そこで今回は「おわりとはじまり」をテーマにして、本館所蔵の貴重資料から数点選んで展示しました。資料やその作者・著者が何らかの形で物事の「おわり」や「はじまり」に関わっています。それが何であるのか、どうぞ考えながら鑑賞してみてください。

※展示会場は図書館閲覧室内ですので、一般の図書館利用者のために静粛な環境の維持にご協力くださいますようお願いいたします。

解説執筆：小島浩之，富善一敏，矢野正隆，森脇優紀【執筆順】

発行日：2019年4月13日

編集：東京大学経済学部資料室

発行：東京大学経済学図書館

<http://www.lib.e.u-tokyo.ac.jp/>

Instagram @utokyo_rhco

